

韓国の自然研究教育機関と教育館

柴 正博

韓国では、2020年に東部の慶尚北道の蔚珍郡(Uljin-Gun)に国立海洋科学教育館(仮称)を建設する計画があり、その教育館の展示や教育についてのコンセプトなどを検討するセミナーが、今年の6月30日に韓国中部の大田広域市(Daejeon)の国立中央科学館で行われました。私は、そのセミナーに韓国の海洋水産部に講師として招かれ、東海大学海洋科学博物館の博物館活動について発表し、議論に参加しました。

そのセミナーの次の日に、私は海洋水産部の方の案内で黄海に面した忠清南道の舒川(Seocheon)にある国立海洋生物多様性研究所の附属施設である海洋生物資源館(SEA?RIUM)と、国立生態院の生態体験館(ECORIUM)を見学しました。短い滞在時間でしたが、これら2つの研究機関の展示教育館を見ってきましたので、ここで簡単に紹介いたします。

海洋生物資源館は、韓国の海洋生物資源を体系的に保全して活用するために設置された国立海洋生物多様性研究所の展示教育施設として、研究所とともに2015年4月に開館しました。図1の左側が研究棟で右側が海洋生物資源館「シークアリウム」になります。入口のホールにはシードバンク(図2)とよばれる塔があり、それには海洋生物の標本が5000点も展示されています。館内には海洋生物の標本による分類展示(図3と4)があり、それ以外にも映像や魚口ロボット、実験教室などもあり、楽しみながら海洋生物を学べる工夫がされています。また、この研究所のすぐ近くには干潟の広がる海岸があり、それは研究所と生物資源館の研究と教育のフィールドとして活用されていました。

国立生態院は、2013年12月に韓国最大の生態研究機関の展示教育施設としてオープンしたもので、広さが99万8000平方メートルの敷地に、生態体験館「エ



図1 国立海洋生物多様性研究所。
左が研究棟で右側がSEA?RIUM(シークアリウム)、
遠景に干潟。



図2 シードバンク・タワー。



図3 無脊椎動物の分類展示.



図6 熱帯館の展示. ガイドツアーで体験.



図4 オニトマキエイの骨格と剥製の展示.



図7 工夫を凝らしたアリの展示室.



図5 国立生態院のエコリウム. 5つの温室が連結した建物. 周辺に野外教育フィールドがある.

コリウム」(図5)、広報館、展望台、映像館を備えた訪問者センターや、朝鮮半島固有の生態系を体験できる朝鮮半島の森、湿地生態院、高山生態院などがあります。国立生態院には、世界の絶滅危惧植物約1000種を含む気候帯別の植物約3万点と、約240種の動物約4200点があり、野外の展示空間には朝鮮半島の湿地を再現した湿地生態院をはじめ韓国の多様な生態系のほか、子どものための遊び場などが設置されています。

エコリウムには、熱帯館、砂漠館、地中海館、温帯館、極地館という5つの展示温室があり、各館にはそれぞれの特徴的な植物が展示され(図6)、温帯館では朝鮮半島の特徴的な動植物、極地館にはペンギンが飼育されていました。展示の中にアリの展示室があり、アリの生態についての工夫を凝らした面白い展示(図7)がされていました。

時間がなく、研究部門については視察することができませんでしたが、国立生態院の研究部門には基礎生態研究室と生態調査評価室があり、基礎生態研究室には生態進化研究部と生態機能研究部があり、生態調査評価室には生態調査研究部と生態情報研究部、生態評価研究部があり、組織的および系統的に国内の生物の生態研究を行っているようでした。

どちらの研究所も研究と教育展示が一体化したような施設で、日本にはこのような国立の研究教育機関が少ないですが、韓国では最近積極的に国家戦略として、このような研究教育機関とその施設ができています。私の参加した国立海洋科学教育館(仮称)の設置のためのセミナーも、そのような動きのひとつでした。